

教室だより（各学年・専科より）

1年生

秋も深まり、校庭の桜や銀杏の木も色づいてきました。10月には谷原中の校庭の雑木林でどんぐりを拾ったり、ぱったを見つたりした1年生。今月は2年生が育ててくれた農園のさつまいもを掘って、芋けんぴを作ったり、枯れた朝顔のつるでリースを作ったりと深まる秋を満喫する行事が続きます。そんな中、今1番の楽しみは大好きな6年生と一緒に行く仲よし遠足です。日頃お世話になってばかりですが、今回はペアの6年生にグループのバッジを作ってプレゼントするという、大変(?)な仕事があるのです。きれいに色をぬって、丁寧に字を書いて大好きな6年生に喜んでもらえるように一生懸命作ろうとはりきっています。

4年生

1日の研究発表を見にいらして下さった保護者の皆様、ありがとうございました。

4年生は、2組と3組は「新聞記者になろう」に取り組みました。教師が作成した給食室の新聞記事から新聞の特徴や記事の書き方を学んだり、校舎建設に関わる方からお話を伺ったことを基に記事を書いたりしました。1組は「写真と文章で説明しよう」に取り組みました。文集「練馬の子ら」から文章構成や表現を学び、写真を説明する文章を書きました。一生懸命自分の文章と向き合って書いていた子供の姿、発表時の活気ある姿、たくさんのお客様からお褒めの言葉をいただき、そのことを子供たちにも伝えようと、とてもうれしそうでした。

11月は、この後も、全校遠足、社会科見学、展覧会と行事が盛りだくさんです。一つ一つの行事や授業に全力で取り組み、実りのある月になるよう、担任一同頑張ります。

2年生 サツマイモの収穫を作文に

5月に強風の中植えたサツマイモ。今年は、梅雨の時期に雨が降らず、また猛暑の影響もあって、水やりにも苦労しました。子供たちが全員がペットボトルを用意し、それに水を入れてリヤカーで横山さんの畑まで運んでは、水やりを続けました。その苦労のかいあって、大きなサツマイモをみんなで収穫することができました。

また、そのサツマイモを材料にしておいしいもけんぴを作ることもできました。

さらに、その活動について、したとおり、見たとおりに上手に作文にすることもできました。楽しい思い出がまた一つつくれ、子供たちも大満足でした。

なお、その作文は、教室前の廊下に掲示してありますので、学校公開の際にご覧ください。

5年生

5月から育てている稲。今年もバケツで育てています。記録的な猛暑やたくさんの被害を出した台風にも負けず、谷原っ子の稲は順調に育っています。

以下、稲刈りをする寸前の子供の反応です。

「稲の事を調べるうちに他の動物から稲をどう守るか分かった。他の植物を育てるときにどのような対策があるのか今後調べたい。」「普段身近にある米が、大変な作業の中作られているなんて思っていなかった。改めて農家の方に感謝したい。」「社会で学んだ米作りの場所に行くことがあったら、自分の稲と比べてみたい。」

など、自分の稲に愛着をもって育てるうちに、様々な思いを抱いたようです。最後は家に持ち帰る予定ですので、楽しみにしててください。

3年生

急に寒くなりました。10月も半ばまで、30度を超える真夏日。かと思えばその数日後には、ストーブを出したくなるような低温。校庭の木々もとまどっているようです。体調を壊す児童も目立ちます。新校舎は、全面南向きのガラス張り、2時間目には、半袖がちょうど良い教室環境です。脱ぎ着のできる服装にしてください。

社会科では、農業の学習をし、キャベツ畑の見学に行きました。毎日、太陽や雲等と相談しながら、毎日作物の声を聞きながらの農業の楽しさと苦労を学んできました。育てている練馬大根は、度重なる台風でずいぶん流されてしまい収穫できるか心配です。自分の力では、どうすることもできない自然環境。その恩恵をいただきながら日々の食事に感謝したいと思います。

6年生

後期委員会が始まりました。谷原小の最高学年として進んで仕事を行う姿がよく見受けられます。朝一番で校旗を揚げる6年生。保健室で下級生に優しく声をかけながら、絆創膏を貼っている6年生。校庭で花壇に水やりをする6年生。教室では、委員会発表へむけリーダーシップをとりながら練習する6年生。どの姿も太陽のようにキラキラ輝いて谷原小を照らしています。その6年生が研究発表会日に行った授業が随筆でした。今まで向田邦子さんやさくらももこさんの文章を学んできました。どこまでエッセイストに迫れるか楽しみでしたが、子供らしい素直な表現に、ちょっとカッコいい表現を取り入れて随筆を書くことができました。保護者の皆様の参観、ありがとうございました。卒業までの登校日は残り92日。11月以降は、展覧会、谷原っ子祭り、全校遠足など、友達と協力して楽しい思い出を作るようにしていきます。

平成25年度展覧会 11月29(金) 30(土)

図工 吾妻 彰

テーマ「あらわそう 自分の色や形で、感じよう いろいろなおもいを」

子供達は、図工の時間にいろいろなモノと出会い、心動かされ作品づくりなどの造形活動をしています。そのモノとは、様々な材料であったり、いろいろな道具であったり、昔の名画だったりもします。きっかけは様々ですが、モノとの出会いから心の内なるものがムクムクと動き出し、手がいつのまにか何かをつくっていたり、描いていたりにしているのです。特に子供達の感受性はとても豊かで、つくることに夢中になっている子ども達の目は真剣でキラキラと輝いています。また作品が出来上がった時の喜びの表情はとても満足した最高の笑顔です。

子供達への大きな願いとして、自分の気持ちや、自分らしさを色や形で精一杯表現すること、友達や人の作品を鑑賞する時に、作った人の思いや、良いところをたくさん感じとれるようにテーマを設定しました。

展覧会では、あくまで造形活動の結果として作品が並び展示されますが、モノとの出会いから始まり、自分の気持ちや思いを表現しようと試行錯誤した子供達の制作過程のこと、見えない部分のこともぜひ想像して作品を見て頂けたら幸いです。